



名古屋大学 予防早期医療創成センター 第11回ワークショップ

<https://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/conference20230202/>



2023年2月2日(木) 10:00~17:00

リアル会場 名古屋大学 東山キャンパス 野依記念学術交流館

地下鉄名城線名古屋大学駅 2番出口より徒歩7分 リモート参加も可能



問い合わせ先

名古屋大学 予防早期医療創成センター
URL <https://www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/>
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学
ナショナル イノベーション コンプレックス (NIC) 5F
TEL・FAX:(052) 789 - 5499
E-mail:PME事務室
kou-kyoten@adm.nagoya-u.ac.jp

参加方法

◎会場参加 :HPの申し込みサイト(下記URL)または、右QRコードから
申し込みサイトにアクセスし、必要事項を御記入の上、ご登録下さい。

1)ご所属 2)氏名 3)メールアドレス 4)昼食要否(実費500円程度、要事前申込)
www.pme.coe.nagoya-u.ac.jp/entry/

◎リモート参加:HPの申し込みサイト、または右QRコードからアクセスし、
必要事項を御記入の上、ご登録下さい。

【会場参加】



【リモート参加】

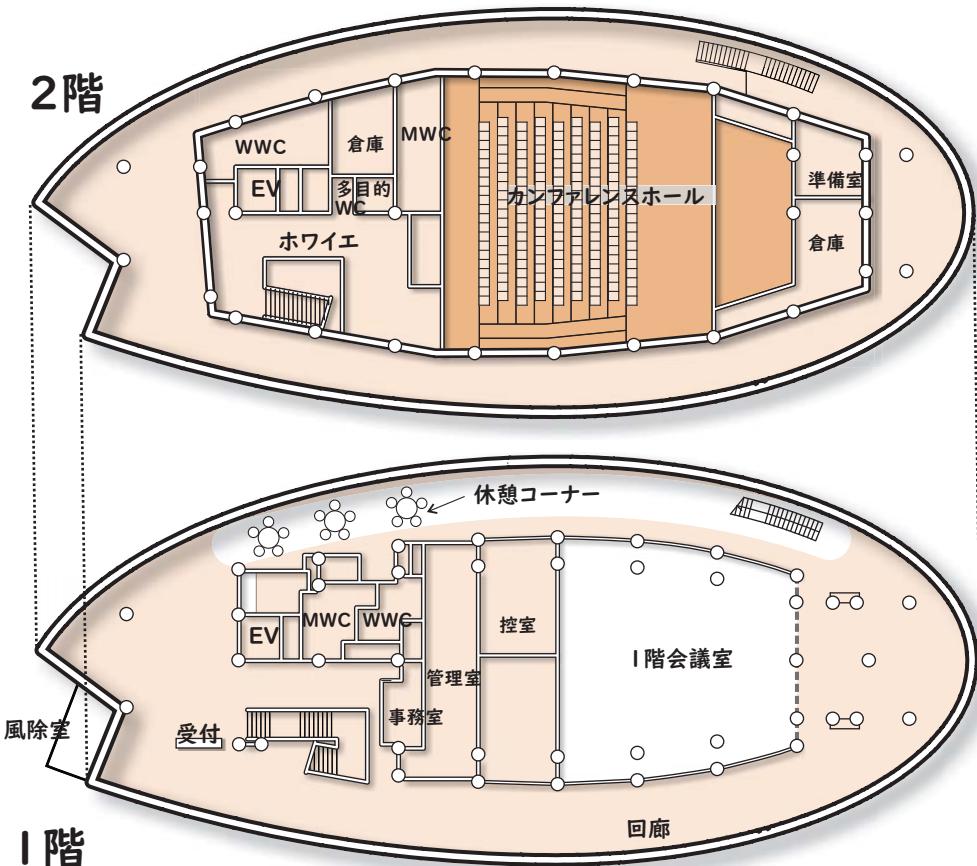


主催 名古屋大学予防早期医療創成センター

時間	2階カンファレンスホール
10:00 ～ 10:10	挨拶 木村 宏(きむらひろし) 名古屋大学大学院医学系研究科 研究科長 教授
10:10 ～ 11:10	【招待講演】 Yahoo! JAPANにおけるデータ利活用～健康、便利、安心に向けて～ ヤフー株式会社 Yahoo! JAPAN研究所 所長 兼 テックラボ 本部長 田島 玲(たじまあきら)氏
11:15 ～ 12:00	【講演】 グローバルヘルスにおけるPHRの位置づけ 慶應義塾大学 医学部医療政策・管理学教室 特任准教授 藤田 卓仙(ふじたたかのり)氏
昼食休憩	
時間	2階カンファレンスホール
13:15 ～ 14:05	【パネルディスカッション1】 PHRの利活用に向けた最近の試み～法政策的動向と新技術 慶應義塾大学 医学部医療政策・管理学教室 特任准教授 藤田 卓仙氏 株式会社Acompany 取締役 COO 佐藤 礼司氏 サスメド株式会社 臨床開発部 取締役 市川 太祐氏 harmo株式会社 事業開発部 佐々木 靖彦氏
14:10 ～ 14:55	【パネルディスカッション2】 治療中患者の特定健診受診率向上をめざして～社会実装に向けた愛知発の試み デンソー健康保険組合 常務理事 永井立美氏 愛鉄連健康保険組合 常務理事 井崎茂氏 健康保険組合連合会愛知連合会 常務理事 吉田雄彦氏 株式会社あまの創健 健康管理事業部長 山本顕博氏
15:00 ～ 15:45	【パネルディスカッション3】 毎日の生活で血管のしなやかさを測る！ ～血圧計測用カフを用いた動脈硬化度早期診断装置の開発～ 名古屋大学 予防早期医療創成センター 教授 松本 健郎氏 LaView株式会社 代表取締役社長 益田 博之氏 名古屋大学 医学部大学院 病態内科学講座 腎臓内科医局員 武田 有記氏
15:50 ～ 16:45	【パネルディスカッション4】 開始から5年！赤ちゃんを救う重症複合免疫不全症の新生児マスククリーニング ～成果と今後の課題～ 名古屋大学 医学部附属病院 小児科 講師 村松 秀城氏 愛知県健康づくり振興事業団 総合健診センター 課長 酒井 好美氏 株式会社パーキンエルマージャパン ヒューマンヘルス事業本部長 穂積 リサ子氏
16:50 ～ 17:00	挨拶 丸山 彰一(まるやま しょういち) 名古屋大学予防早期医療創成センター長 医学系研究科 教授

※ 入場時には不織布マスク着用の上、検温、手指消毒をお願い致します。
また、昼食の際には指定の場所で「黙食」にてお願いします。

野依記念学術交流館



10:10
~11:10

座長 丸山 彰一

(まるやま しょういち)

予防早期医療創成センター長
医学系研究科腎臓内科学 教授

11:15
~12:00

座長 内田 広夫

(うちだ ひろお)

予防早期医療創成センター 教授
医学系研究科小児外科学（兼務）

Yahoo! JAPANにおけるデータ利活用～健康、便利、安心に向けて～

ヤフー株式会社 Yahoo! JAPAN研究所 所長 兼 テックラボ 本部長

田島 玲 (たじま あきら) 氏

AI技術の民主化が進み、だれもが手軽に最先端の機能を体験できるようになってきている中、改めて独自、かつ、大量のデータを保有することの意義が注目されている。一方で、こうしたデータがあればいろいろ面白いができそう、ユーザとしてはプライバシーが心配、といった漠然としたイメージにとどまっていることが多い。

Web業界では、サービスの提供とともに日々大量のデータが産みだされており、それを最先端の技術と組み合わせてユーザや社会にとっての価値につなげていくことが成長の原動力となっている。

本講演では、検索ログや位置情報をはじめ独自性の高いデータを保有しているYahoo! JAPANがそれらをいかに健康、便利、安心といった価値につなげていくか、その具体的な取り組みを研究開発から事業化まで幅広く紹介する。

グローバルヘルスにおけるPHRの位置づけ

慶應義塾大学 医学部医療政策・管理学教室 特任准教授
世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター プロジェクト長

藤田 卓仙 (ふじた たかのり) 氏

2023年5月にはG7広島サミットが日本を議長国として開催される。長崎では保健大臣会合が開かれ、日本においてグローバルヘルスの議論がなされる。

パンデミック対策に加えて、従来から日本がアピールしてきたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成も含めた議論がなされるものと思われるが、UHCをさらに進めるためには、我が国が政策として進めているPHRの活用を含めたヘルスケアデータ活用が鍵となる。

G7加盟国の中では、欧州において2022年にヨーロピアン・ヘルス・データ・スペース（EHDS）に関する法案が示され、欧州各国にてPHRを含めたデータ活用が進むものと思われるが、必ずしもUHCと結びつけた議論は十分になされていない。

本講演では、こうした国際的な動向を紹介し、グローバルヘルスの一環としての我が国におけるPHRの位置づけに関して議論を行う。

モデレーター

吉田 安子（よしだ やすこ）

予防早期医療創成センター 特任教授

モデレーター

吉田 安子（よしだ やすこ）

予防早期医療創成センター 特任教授

13:15～14:05 パネルディスカッションⅠ

■ PHRの利活用に向けた最近の試み～法政策的動向と新技術

慶應義塾大学 医学部医療政策・管理学教室 特任准教授

藤田 卓仙（ふじたたかのり）氏

株式会社Acompany 取締役 COO

佐藤 礼司（さとうれいじ）氏

サスメド株式会社 臨床開発部 取締役

市川 太祐（いちかわ たいすけ）氏

harmo株式会社 事業開発部

佐々木 靖彦（ささき やすひこ）氏

厚生労働省のデータヘルス改革や内閣府の「経済財政運営と改革の基本方針(骨太の方針)2022」を受けた医療DX推進本部の設立等、PHRを含めた医療DXの動きが加速している。PHRの更なる利用に向けては、関連法整備も不可欠であり、現在、仮名加工情報の利用の可能性を含めて、次世代医療基盤法や個人情報保護法の見直しの議論がなされている。

本パネルディスカッションでは、それらの法政策的動向の背景を説明するとともに、注目される新技術として、個人情報を提供しなくてもデータを秘匿化(暗号化)した状態のままで計算・解析を行う「秘密計算」や、ネットワーク上にある端末同士を直接接続し、取引記録を暗号技術を用いて分散的に処理・記録する「ブロックチェーン技術」について説明する。そしてこれら新技術の発展が、臨床研究分野等も含めPHRの利活用に及ぼす効果や今後のグローバルな時代に向けての期待に関して会場と共有したい。

14:10～14:55 パネルディスカッションⅡ

■ 治療中患者の特定健診受診率向上をめざして

～社会実装に向けた愛知発の試み

デンソー健康保険組合 常務理事

永井 立美（ながいたみ）氏

愛鉄連健康保険組合 常務理事

井崎 茂（いざき しげる）氏

健康保険組合連合会 愛知連合会 常務理事

吉田 雄彦（よしだ かつひこ）氏

株式会社 あまの創健 健康管理事業部長

山本 顯博（やまもと あきひろ）氏

特定健診も第4期の見直しの時期を迎え、各保険者で受診率向上に対する対策も見直される中、治療中を理由に特定健診未受診の被扶養者をターゲットに、かかりつけ医と健康保険組合が連携して受診率向上につながる事業がスタートしている。厚生労働省の補助金事業に採択され、昨年度はPFS事業(成果連動型民間委託方式による保健事業)として2組合で実施した。愛知県医師会に趣旨説明に伺い賛同を得て実施し、対象者の約20%の受診という成果を得た。今年度は同省の共同事業として11組合へ拡大して実施している。

国の政策ではかかりつけ医制度の普及は重要施策のひとつに位置付けられており、今回のモデル構築によって特定健診の受診率向上や疾病の早期発見による加入者の健康維持・増進につながれば、かかりつけ医制度のメリットを具体的に示す一助となることも期待でき、社会実装に向けた課題についてディスカッション形式で報告する。



モデレーター

丸山 彰一（まるやま しょういち）
予防早期医療創成センター長
医学系研究科 腎臓内科学 教授

15:00～15:45 パネルディスカッション3

■ 毎日の生活で血管のしなやかさを測る！

—血圧計測用カフを用いた動脈硬化度早期診断装置の開発—

名古屋大学 予防早期医療創成センター 教授
松本 健郎（まつもと たけお）氏

LaView株式会社 代表取締役社長
益田 博之（ますだ ひろし）氏

名古屋大学 医学部大学院 病態内科学講座 腎臓内科医局員
武田 有記（たけだ ゆうき）氏

動脈硬化は罹患しても痛くも痒くもないが、放置すると動脈が詰まり心筋梗塞や脳梗塞を発症するためサイレントキラーと呼ばれる。一方、動脈硬化は初期段階であれば生活習慣の改善で軽快するため、初期動脈硬化を簡便に検査する方法が重要である。このような方法として脈波伝搬速度検査や血流依存性血管拡張反応検査がある。前者は血管の硬さを測る方法、後者は血管の活きの良さを測る方法であるが、超音波診断装置や心電計などが必要なため測定は病院に限られ、また保険の関係から測定は多くても1ヶ月1回に制限される。

そこで、血圧と同様、家庭で毎日計測できる手法の確立を目指し、血圧計同様にカフを使って、血管のかたさや血管容量変化を測定する方法を考案した。本法では血管容量のわずかな変化を捉えるため計測精度の向上が必須である。本パネルディスカッションでは、このような装置の完成を目指し、装置の改良や計測データの蓄積を進めている状況を紹介し、装置の将来像について討論したい。



モデレーター

檜 顯成（ひのき あきなり）
医学系研究科 希少性・難治性
がん解析研究講座 特任教授

15:50～16:45 パネルディスカッション4

■ 開始から5年！ 赤ちゃんを救う重症複合免疫不全症新生児マスククリーニング～成果と今後の課題

名古屋大学 医学部附属病院 小児科 講師
村松 秀城（むらまつ ひでき）氏

愛知県健康づくり振興事業団 総合健診センター 健診業務部 検査課長
酒井 好美（さかい よしみ）氏

株式会社パークインエルマージャパン ヒューマンヘルス事業本部 事業本部長
穂積 リサ子（ほづみりさこ）氏

重症複合免疫不全症(SCID)は、「原発性免疫不全症」の中でも最も重症な病型である。重篤な感染症の発症前に正確に診断を下し、根本的な治療法である同種造血幹細胞移植を行うことで、著明な生命予後改善が確認されている。

我々は、愛知県内で出生した新生児を対象に、2017年4月より、希望者に対する有料のSCID新生児スクリーニングを開始した。2021年12月までに137,484人の新生児を対象に検査を行い、典型的なSCID症例を2例診断し(IL2RG-SCID、Reticular Dysgenesis)、さらに10名のSCID以外の原発性免疫不全症を同定し、それぞれに適切な感染予防管理を提供することができた。

SCIDに対する新生児スクリーニング検査は、国内においても徐々に様々な地域で広がってきており、一日も早い公的マスククリーニング対象疾患への登録を願ってやまない。